

Ⅲ 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標

1 酪農経営方式
単一経営

目指す経営の姿	経営形態	経営概要				
		飼養形態				
		経産牛頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用(放牧地面積)
スタンション60頭	家族	頭以上 60	つなぎ	ヘルパー	分離給与	(ha) 舎飼
フリーストール120頭	家族	頭以上 120	フリーストール ミルクパーラー	ヘルパー 公共牧場	分離給与	(ha) 集約放牧

生産性指標																
牛		飼料							人							
経産牛1頭当たり乳量	更新産次	作付体系及び単収	作付延べ面積 ※放牧利用を含む	外部化(種類)	購入国産飼料(種類)	飼料自給率(国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生産コスト	労働	経営					
									生乳1kg当たり費用合計(現状平均規模との比較)	経産牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間(主たる従事者の労働時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得	
kg	産次	kg	ha			%	%	割	円(%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円	
9,000	3.4	牧草 4,188 デント 6,993	56.3	個別完結	濃厚飼料	68	73	経営内 9割	97	57.9	3,589	7,734	5,250	2,483	1,246	
5,000	3.4	牧草 4,188	87.5	個別完結	濃厚飼料	68	73	経営内 9割	77	33.2	3,979	7,297	4,617	2,680	1,347	

- (注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。
 2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。
 3. (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

2 肉用牛経営方式

(1) 肉専用種繁殖経営

目指す経営の姿	経営概要					
	経営形態	飼養形態				
		飼養頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用 (放牧地面積)
専用種繁殖経営	家族複合	頭以上 30	牛房群飼	ヘルパー 公共牧場	分離給与	(ha) 10
専用種繁殖経営	家族複合	頭以上 60	牛房群飼	ヘルパー 公共牧場	分離給与	(ha) 公共牧場 (40ha)

生産性指標																			備考
牛				飼料							人								
分娩間隔	初産月齢	出荷月齢	出荷時 体重	作付体系 及び単収	作付延べ 面積 ※放牧利用 を含む	外部化 (種類)	購入国産 飼料 (種類)	飼料自給 率(国産 飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用割合	生産コスト		労働		経営				
											子牛1頭当たり 費用合計(現 状平均規模と の比較)	子牛1頭 当たり飼 養労働時 間	総労働時間 (主たる従 事者の労働 時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従 事者1人 当たり所 得		
ヶ月 12.5	ヶ月 23.0	ヶ月 9.0	kg 去勢330 雌310	kg 4,188	ha 22.0	—	濃厚飼料	% 79	% 79	割 経営内 8割	円(%) 694,470	hr 40.6	hr 1,220	万円 2,655	万円 2,083	万円 571	万円 571		
ヶ月 12.5	ヶ月 23.0	ヶ月 9.0	kg 去勢330 雌310	kg 4,188	ha 11.4	—	濃厚飼料	% 79	% 79	割 経営内 8割	円(%) 649,827	hr 40.6	hr 2,439	万円 2,580	万円 1,755	万円 825	万円 677		